

長根だより

令和7年4月15日

4月号

長根小 学校通信

【校訓】 強く 明るく よく励む

子どもが主役

長根小学校長 三宅 勝之

80人の新一年生を迎え、全校児童464人で令和7年度がスタートしました。入学式は晴天に恵まれ、桜の花も美しく咲き誇り、すべてが新1年生を祝福するかのようでした。2年生以上の子どもたちも新しい学年に進級し、希望をもって元気いっぱい笑顔を見せています。

令和7年度の学校教育目標は「夢いっぱい 自ら学び 心豊かに たくましく」としています。これを達成するために、目指す学校像として「子どもが主役の学校」としました。学校は子どものためにあることは間違いありません。では、「子どもが主役」であったかという、そうとも言い切れません。「教師の指示に従う」「授業を受ける」「宿題が出される」…。どれも学校生活で耳にする言葉ですが、ここには子どもの主体性はあまり感じられません。子どもが主役になるためには、教師は伴走者として、必要に応じた支援をし、それをもとに子どもが自ら考え、自分たちで解決していこうとする、子ども自身が当事者として学びに向かうような姿勢が大切です。こういった姿を「自分を表現する」としました。表現する手段は人それぞれです。子どもたち十人十色、464人464色の表現が広がる1年にしていきたいと思います。職員、保護者、地域が一体となって子どもたちを育てる長根小学校の強みをさらに生かしていくよう、本年度も皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

未来につながる子どもたちへ No.82

であ きせつ 出会いの季節



春は出会いの季節です。今年の春、新たに迎えた職員もいれば長根小を去った職員もいます。なにより元気な1年生80人という素敵な出会いがありました。

愛知県出身の教育学者・哲学者に森信三という方がおっしゃるには、「人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早すぎず、一瞬遅すぎないときに。」だそうです。新しい担任、新しい友達、新一年生、この春の長根小での出会いは、今このときが最高のタイミングだということになります。このすばらしい出会いを、お互いに最高のものにしていききたいものです。